

# 井の頭公園100年 次世代に伝える

一日で開園百周年を迎えた東京都立井の頭恩賜公園(三鷹市、武蔵野市)。地元をはじめ都民に愛されてきた公園の自然や景観を次の世代へ残し、伝えようとする人々に思いを聞いた。(鈴木貴彦)



⑤井の頭池の「かいぼり」を担う八木愛さん  
⑥映画「PARKS パークス」を企画した本田拓夫さん(東京都武蔵野市で)

園内の井の頭池(約四・二畝)は、江戸時代は神田上水の源だったが、高度経済成長期以降、水質が悪化。百周年を前に二〇一四〜一六年にかけ、池の水を抜いて天日にさらす大がかりな作業「かいぼり」が行われた。

都によると、一九六〇年代、公園周辺は人口が増え、湧き水が減少し水質は悪化。八〇年代にはブルーギルなど外来種が持ち込まれ、生態系が崩れていった。

かいぼりでは池の魚やカメ、ザリガニなどを捕獲し、在来種だけを戻して外来種を駆除。水は透明度が増して池の底が見えるほどになり、池からは絶えたと考えられていた絶滅危惧種の水草「イノカシラフラスコモ」も約六十年ぶりに確認された。

NPO法人生態工房(武蔵野市)が実施した。



東京都立井の頭恩賜公園の池の「かいぼり」で、投網を打って行われる外来種などの捕獲作業＝2015年11月



井の頭恩賜公園 1917(大正6)年5月1日に開園。東京都武蔵野市と三鷹市にまたがり、井の頭池がある。動物などを見学できる自然文化園や三鷹の森ジブリ美術館もある。

いぼり隊」の協力が大きい。業者だけでは、こま

## 「かいぼり」で水質回復◆満開の桜 青春映画に

「自然は素直で、人間の関わり方次第で違ってくる。井の頭の生態系回復の試みは始まったばかり。未来に自然を引き継ぐため、かいぼりを続けていきたい」。今もゴム長姿で定期的に池に入り、生物の記録を続ける。

四月から公開中の映画「PARKS パークス」(瀬田なつき監督)は、開園百周年の記念作品。全編を井の頭公園と、隣り合う吉祥寺でロケした青春映画だ。

企画したのは、一四年に閉館した吉祥寺の映画館「ハウスシアター」の元オーナーで、映像や音楽イベントを仕掛けてきた本田拓夫さん(モモ)。「監督にお願いしたのは一つ。桜の季節の井の頭公園の映像を入れてほしい。それだけ」と振り返る。

満開の桜。公園の緑の中を主演の橋本愛さんらが自転車疾走する。誰もいない深夜の公園の美しい森。池のほとりで歌い、踊る若者たち。「試写を見て、公園が美しく撮れているので、すごくうれしかった。このすばらしい公園を、未来の若者たちにも残したい。あらためてそう思った」